令和３年度第２回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会概要

〇日　　時：令和３年11月29日（月）16時00分～18時00分

〇場　　所：大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第二応接室

〇出席委員：国枝会長、相原委員（リモート出席）、阿多委員、清水委員、

玉置委員（リモート出席）、南雲委員、三木委員、山田委員

〇事務局　：府民文化部副理事、万博公園事務所長　ほか

Ⅰ　開会

・新委員の紹介

Ⅱ　議題

**〇議題１　新たな将来ビジョンの策定について**

（資料に基づいて事務局から説明）

**・キーワードについて**

（国枝会長）それでは意見交換を進めていきたい。最初に、キーワードについて“つながる”で問題ないか。

（各委員異議なし）

（国枝会長）それでは、40分程度時間を取り、視点・論点について、一つずつ議論を深めていきたい。

**（１）SDGs**

（国枝会長）まず、“つながる”から。SDGsの視点があったが、これに関して三木委員、いかがでしょうか。

（三木委員）SDGsは国際的なテーマで、万博のテーマとしても、万博記念公園のテーマとしても必要不可欠だと思います。70年万博のとき、基本的に公害問題を取り扱ったのは、スカンジナビア館くらいしかなかった。環境、エンバイラメントとしては当時から使ってきたけれども、持続可能性みたいなことはほとんど考えていなかったので、新たにこれを大きなテーマとして、実験的にやっていくというのは非常にいいと思う。特に未来のことなので、若い世代とはかなり意識が違うので、割と子供を中心にして考えていくのがいいのではないかと思う。

（玉置委員）SDGsに関しては、2030年という目標が一応設定されていて、2025年万博というのはその5年前なので、それに向けた１つのステップアップとしていいんじゃないかという話だと思う。これは万博公園の今後のことにもかかわる。2030年とか2025年という１つの目標の年が出ているので、大きな目標に向かって、何年ごろに、万博公園がどうなるのかというスケジュール感も、縛られるように思うかもしれないが、SDGsと連携しながら、2025年万博だけに限らず、2030年くらいには吹田の万博公園がこんな意味をもっているという、SDGsと連携させたような見方も必要と感じた。

（国枝会長）どちらかと言うと、環境に限らず、SDGsの全部のテーマ。

（玉置委員）SDGsのテーマの中で、何を選ぶかというのは皆悩んでいるところ。非常にたくさん項目があるので、その中から絞り込んでいくのもこの審議会でどんどん議論していくべきことだと思う。

（相原委員）玉置委員の発言に賛同する。これを進めていくと、莫大な意味で広いものがある。何か基礎設定や指針がないと進まないので、今みたいな考え方はすごく分かりやすいと思う。市民にも明確で分かりやすいかなと思った。

（南雲委員）1つの大きな公園の広い土地で、今までに出来てきた進歩と調和という中で、自然環境の中で子供たちがどういう風に生活していくかということが大事なんだと分かるような取り組みと一緒になってくれればいいと思う。1回来て終わりではなくて、小さい頃に来た記憶がずっと残っているということは、常に万博というものを意識しながら大きくなっていけるということ。そういう環境づくりが必要ではないかと思っている。

（三木委員）玉置委員が言うように、SDGsは広いので、抽象的になると何をしたらいいのか分からないということになる。突き詰めれば、かなりエネルギー問題が大きいと思っている。現在、景気の先行きが不透明のため、産油国が増産を見送ったことにより、石油の価格が上がっていたりするが、万博においては、ほぼ100％原子力で維持されていた。関西電力も民間で初めての原子力発電所から試験送電した。結局、未来の都市というものを考えた時に、エネルギーをどうするかということが、万博の実験の１つの大きなテーマ。戦後は原子力と平和利用ということだったが、今後はなかなかそうはいかないと思う。万博記念公園では、現状でも太陽光発電が試験的に使われていて、だいたい何ワットくらい発電しているか電光掲示板で可視化されている。けれども、子供たちが考えるとしたら、どのようなエネルギーで全体を維持していくかが大きな問題なので、太陽光発電だけではなくて、風力発電でも構わないし、様々なエネルギーを使うべきだと思う。

万博というのは全世界から国がやってきた小さな地球モデルなので、そこで基本的なエネルギーは維持できるというようなことを１つ目標にして、どのような発電があるのかを子供たちが近くで見られる、生態系の多様さとエネルギーの多様さみたいなものを入れるというのは1つやった方がいいと思う。

（山田委員）子供を主役というのは誠に結構。公園のいたるべき姿、将来的に未来あふれる姿でいいけれど、日本全体でみると高齢者のことが課題になると思う。公園の役割としては、高齢者も含めて、日常の健康づくりの場になる。こういったことが非常に重要だ。高齢者と健康みたいなことをSDGsの項目に入れるのがいいのか私自身も分からないが、どこかに１つ、言葉としていわゆる「高齢者」「健康」というものを入れたいと感じた。

（阿多委員）この件に関して、個人的に思っている目標というのが、自分たちのできることを自分たちのリソースでちゃんとやるということ。例えば、万博公園の維持管理というのは出来るだけ自分たちのところからリソースを捻出してやりましょう、と。先ほど三木委員の発言から、太陽光発電という形で電力を持ってきたら、散水のときに使うとか、あるいは水も池の水をフィルターして使うとか、全てがいきなり100％出来るという訳では必ずしもないけれど、いわゆる自然の中で取られてきたリソースをちゃんと活用すれば、より公園をきれいにできる、自分たち自身の使うリソースは自分たちで確保できるということを、最終的にはエコシステムみたいになるように、そのきっかけづくりを見せていけるようになればいいと感じた。カーボンニュートラルなど、できるだけプラスとマイナスを閉じた公園の中で実現するということを1つの目標とするのもありかと思う。

（清水委員）SDGsはベーシックに、当たり前の考え方なので、ここは絶対に外せないと思う。どんなことを考えるときも、行動するときもSDGsがあるので、公園を維持していくために必要な考え方なので外せない。その時の視点として、古いかもしれないが、結局、万博が持っている資源の保全をいかにするのか、そしていかに活用するのかということになってくるかと思う。万博の資源というと、やっぱり自然、そして歴史文化だと思う。それをどうやって活用していくのか、スポーツはこっちに入ってくるのかわからないが、保全と活用の視点で見たときにSDGsをきちんと入れていくことが必要だと思う。それと、SDGsというのは結局、かけがえのない地球、一つしかない地球を守るというところからきているが、昨今は地球だけじゃなく宇宙のことも考えながらやっているところもあると思う。

まさに未来を考えるという場としての万博においても必要になってくると思うので、宇宙的なものも入れていくのも面白いかなと思う。

（国枝会長）SDGsに関して、かなり多様なご意見を頂戴した。例えば目標の設定について、どういう視点が必要なのかということを共有するとかなり具体的な未来に向かって分かりやすいのではないかと思う。また、子供を主役にする、あるいは高齢者が今後増えるということで日常の健康ということも重要なのではないかというご意見いただいた。

SDGsの根幹である、持続可能にするためにはエネルギーからすべての資源、環境など、持続可能にしていく手法についてぜひここで実現できればというご意見もいただいた。エネルギーも含めて、そういったことが重要なのではないかというご意見があった。

さらに、日々の生活の中で子供たちがこの公園を記憶に残して将来もずっと使い続けるような視点も必要だというご意見も出た。地球から宇宙までかなり広い視点で物事を考えていこうというご意見もいただいたので、そういった意味でもかなり広い視点でこのSDGsを考えていければと思う。

**（２）ダイバーシティ＆インクルージョン**

（国枝会長）それでは次のダイバーシティ・アンド・インクルージョンのテーマについて。相原委員の「身長制限のないジェットコースター」という言葉についてはいかがでしょうか。

（相原委員）いろんな意味での制約があるのがジェットコースターと考えたときに、制約が悪のような感じになっており、そういうものをはめ込まないというのが大切なのではないかという考え方を例えたもの。

（国枝会長）ユニークベニューついての考え方は玉置委員いかがでしょうか。

（玉置委員）万博公園を市民が寛ぐ憩いの場ということで、いくつかパビリオンとか博物館などのバリアフリーなどは当然やっていくべきことだと思う。せっかくなら何か万博公園が新しいインクルージョンに取り組んでいることが見えるようにできればいいと思う。ただセミナーやシンポジウムをしましたというだけでは場所を提供しただけに見えるので、万博公園の広場、空間を活かした、渋谷のレインボーパレードなど、一つのダイバーシティをここで提供する。ロハスなども万博でやっている。ヨーロッパではよくやっているが、日本ではなかなか馴染んでいないところもある。反対する人も非常に多いと思うので、慎重に考えなければいけないと思うが、ダイバーシティ・アンド・インクルージョンの考え方を持つ人がお祭り的にそこに集まって、楽しく過ごすことで、公園がダイバーシティ・アンド・インクルージョンに取り組んでいるということが伝わるのではないかと思う。

（三木委員）僕は色彩学会にも入っており、ちょうどこの前このテーマが上がった。色弱者のための、カラーユニバーサルデザインというが、男女のトイレをどうするのか、LGBTQに加えて最近では略さずにもっと続いていくという話もしていたが、これは例えば男は青、女は赤と決まっているけれども、両方緑にする取り組みがあって、そこまではやりすぎかもしれないが、最近では男でも女でもないトイレというのがある。わかりやすくトイレをそういうものにするとか、カラーユニバーサルデザインに配慮したデザインにするとか、視覚的にアピールできるものをすればモデルとして広がるのではないか。

（国枝会長）東京オリンピックでピクトグラムというのもあったが、そういうものでもいいのか。

（三木委員）ピクトグラムは東京オリンピックをきっかけに普及したと言われているが、サイトファニチャーは大阪万博がきっかけに普及したと言われている。だからストリートファニチャーとか、サイン計画とかピクトグラムみたいなものや、デザインとか視覚的にアピールしやすいもの、もちろん聴覚障害のある人なども考慮した上で、そういうものを積極的にやれば良いと思う。

（清水委員）ダイバーシティとかインクルージョンということだが、色々な方たちがいる中で、そういう方たちとなかなかコミュニケーションが取れない、そういう方たちがいる所に普通はなかなか参加できないことがあると思うが、例えば全然言語が違う人たちがコミュニケーションをとるとか、例えば子供とシニアとか、外国人と日本人とか、ハンディキャップがある人たちと交わるとか、普段自分がアクセスしづらいというか、そう人たちも当然万博という資源を使うので、そういった時に人とコミュニケーションをとれる場として使う、それがイベントなのかわからないが、そういった視点が必要になってくるのではないかと思う。

（国枝会長）コミュニケーションをとるのはなかなか難しいと思うが、この辺りはテクノロジーの観点からいかがでしょうか。

（阿多委員）最近だと自動で翻訳したりなどもある。僕も専門外だが、みんなでわっと集まって楽しい場を作るというのを、それこそ太陽の塔の前のお祭り広場でする。イメージとしてあるのが国籍とか、いろんな人種の人たちが楽しそうに踊っているような場が作れるのが良いのかなと。そういう時に一つのコンテンツが音楽であったり、踊りであったりみんなでできるような場所かなと思う。全然関係ないかもしれないが、街中で秋などになるとオクトーバーフェストなどのイベントをやっている。あそこでも音楽が鳴り出すと、みんな楽しそうに歌っていたり、わあわあ言っていたりする。そういう何気ない出会いができる場というのがあの広場で作られるような核ができてくるような仕掛けがあってもいいと思う。

（玉置委員Webコメント）EXPO’70の時、世界の子供たちが集まるお祭り、イベントがお祭り広場で開かれていたので、各国大使館に協力を求めたりして出来たらいいですね。その流れでレインボーパレードみたいなのも開けるとベストですね。

（南雲委員）今の話を聞いていると、トイレなどを誰でもが使えるようにする設備の面と、子供や高齢者や外国人など誰でもが一緒にできるソフトの面があったと思う。両方を考えていかないと難しいと思うが、例えば各地域の中で、子供たちが小学校単位で色々なことをやっている。それが万博公園でもっと大きなことができると思う。シニアとの接触とか、昔遊びとかそういうものが連なっていくものもあれば、外国の方を呼んでスポーツをしたり、そういう触れ合いをもう少し大きな視点で考えられると思う。ソフト面と設備面を並行して考えていかなければならないと思う。

それと、「ポストコロナを見据えた普段使いの観点」について詳しく知りたい。

（事務局）前回の審議会で相原委員と三木委員が、ポストコロナで非常に安心安全に使える公園だというご意見いただいた。特に相原委員は、普段使いということでいろんなことが考えられるのではないかという発言があった。

（国枝会長）ポストコロナということで、観光サービスという視点が出ていたが、オンライン観光、オンラインツアーが普及している。例えば外に出られないハンディキャップを持っている方もオンラインで公園のツアーに参加できるサービスも可能ではないかということも付け加えておく。

　　　　　　ダイバーシティ・アンド・インクルージョンの視点について、普段使いの安心安全の視点、様々な方がバリアなしに利用できるようなハード面、ソフト面での配慮、そして、すべての多様な方が楽しくコミュニケーションをとりながら参加できる機会、あるいはイベントが必要なのではないかというご意見を頂戴した。

**（３）文化・スポーツの拠点**

（国枝会長）次に、文化・スポーツの観点ということでご意見をいただきたい。

（玉置委員）資料３に「実験都市としての、次世代のコミュニケーションの場づくり」という項目があるが、今後、公園駅前の駐車場があるスペースに本格的なグローバルスタンダードのアリーナができて、周辺に、例えば住居を作るという話もあるので、スマートシティができるという方向で今話を進めている。一つ考えなければならないのは、隣にできるアリーナを中心にしたスマートシティと万博公園の場について。というのは、住み分けるというより、むしろ相乗効果があるべきだと思う。アリーナができたときに、万博公園のサービスを少しグレードアップするだけでは足りない。SDGsの話もそうだが、万博公園に求められているものは、文化とスポーツが一番大きいと思う。公園の広い空間の中で、「桜の季節は桜を見て楽しい」という空間から1歩2歩進んでいかなければならないということだと思う。その場合に、あまり安易にアートフェスをすればいいということではないのかもしれないけれど、文化とかスポーツとか、今はレガシーとか拠点という話もありますが、公園の空間内で何ができるのかを前向きに考えていきたいと思う。それを考えるときに隣にできるアリーナを想定して、お互いが連携しながらやっていく。

また、2025年に万博があるときに、万博公園がひとつのサテライトになるべきだと思っており、EXPO’70も含めた時間的な連続性、EXPO’70の思い出もあるし、これからの新しい文化・スポーツもあり、ただの公園プラス新しいものをここで作っていく場にするように、風呂敷を広げた方が楽しいと思う。

（国枝会長）アリーナについて、事務局からご意見あるか。

（事務局）詳細な事業内容については協議中のため申し上げられないが、玉置委員が仰ったように、日本にはまだないワールドスタンダードなアリーナができると事業予定者から聞いている。また、アリーナだけでなく付随して相乗効果を発揮するような施設もある。それらと万博記念公園がどのように連携していくかを考えたときに、万博公園全体とつながっていく提案も事業予定者からあるので、万博公園全体としてどのようにしていくのか、今の使い方よりもさらに踏み込んだ仕組みが必要であると感じている。

（三木委員）他の美術館との連携ということで、大阪中之島美術館はアーカイブを重視していて、具体（美術）とか万博で活躍したアーティストのデータをたくさん持っているので、連携してはどうか。公園の活用の手法としては、昨今日本中で開催されている芸術祭もヒントになる。もともと、メディアアートやテクノロジーを使ったアートの芸術祭というのは大阪万博が発祥、本場のようなものなので、もっとやればいいと思う。メディアアートは必然的に光を使うのでプロジェクターやディスプレイ等を使うと開催が夜になってしまうという欠点があるので、昼にも太陽でできるものがあるといい。サーペンタイン・ギャラリーはロンドンのケンジントン・ガーデンズにあるギャラリーで、パビリオンを毎年作っている。建築家の伊東豊雄さんは、そこで世界から注目されるようになったし、25年万博の会場設計を行っている藤本壮介さんも参加している。パビリオンを万博公園のあちこちに作るなどやってみてもいいし、メディアアートもやってみてもいいと思う。万博公園はすごく広い。一度ですべて回るのは不可能なので、もっと回れるような取り組みが欲しい。僕は来た時にほとんど西側にはいかない。そこに行くような魅力的な仕掛け、さまざまなパビリオンとかエンターテインメントのライブがあるとかがあってもいいと思う。

スマートシティにも関わることだが、万博公園内は歩くのが大変。そこを繋ぐようなパーソナルモビリティなど回れるものがあってもいいと思う。

また、少子高齢化を見据えた方が良いという話がでた。もともと2025年の万博のテーマは「人類の健康・長寿への挑戦」だった。いろいろな意見があり「いのちかがやく未来社会のデザイン」になったが、もともとは少子高齢化していく社会にどう対応していくかが大きなテーマだったので、万博記念公園においても高齢者に目配りすることは大切だと思う。オリンピックの時に聖火ランナーが走っていたが、ジョギングできるコースを作ってもいい。ちょっとスポーツができるような環境を整えることもやっていきたい。

（清水委員）アリーナができることはとても大きいと思う。若い人たちが集まってくると思う。その若い人たちはおそらく今まで万博公園に興味を示さなかった人たちだと思う。そういう人たちが来てくれることで、新しい文化がどんどんできてくると思う。それをどのように利用していくか。また、せっかく来てくれた新しい層と公園をどのように繋げていくか。例えばコンサートなどの前後に公園を利用してもらう。今のままではコンサートに来てそのまま帰ってしまうので、新しい層の人たちに利用される公園、新しい付加価値を作っていけると良い。もしかしたら新しい層の人たちが新しい使い方を考えてくれるようになるかもしれないので、その人たちの考え方を吸収していかないといけないと思う。

（国枝会長）アリーナが一つの大きなポイント、連携が重要であるとのご意見をいただいた。また、文化としても万博レガシーを守り、何ができるのかについてもご意見いただいた。アートが重要であるという意見もあった。文化・スポーツ両面で魅力ある公園であるということが重要であるということだと思う。また、若い人が集まる公園としても魅力的であるものにする、そして、子供から高齢者まで多様な人が集える拠点が必要であるということだと思う。

（玉置委員Webコメント）2016年に、私も審査員だったおおさかカンヴァスの第7回が万博公園で開催されたが、非常に面白かった。

→　<https://2ngen.jp/clientworks/osaka-canvas2016/>

（玉置委員Webコメント）アーバンスポーツのメッカとかにはしたい。eスポーツも。

→　<https://www.afpbb.com/articles/-/3254483>

（玉置委員）2025万博との関連で、最近は経済産業省万博推進室と話をしており、彼らが危惧しているのは2025年万博のプランでEXPO’70とのつなぎ込みが希薄になっていること。彼らとしてはEXPO’70とのつなぎ込みをちゃんとしたいと考えている。もしよければ経済産業省の万博責任者と当審議会、大阪府とのつなぎ込みをするので検討してほしい。

（事務局）我々としても2025万博とのつなぎ込みは必要だと考えるので、よろしくお願いする。

（国枝会長）経済産業省は大学も回っているようで、私も話を聞く機会があった。是非やっていきたいと思う。

**（４）DXの活用**

（国枝会長）次にDXの活用ということで、どのようにつながるかということだと思う。

（阿多委員）このテーマでいくつか案を考えたが、思いつくままに話してみたいと思う。ひとつ、繋がるという観点でいうと、いかに公園に来なくて公園の良さを感じられるかというところ。最近YouTubeを見るが、とてもきれいな景色を撮影している動画がけっこうある。見ていても飽きない。ドローンで空撮された高精細な動画を見ていると本当にきれい。ただ小さい画面だとあまり意味がない。大きい画面で見ると、本当に行った気分になれる。それが気軽に作られているのが現状だと思う。万博の良さを伝えるYouTube動画を作って、再生数が伸びないかと思う。そういった、できるだけ行ってみたいと思わせるコンテンツができると良い。あまりやりすぎるとお腹いっぱいになって行かないということもあるが、今はなかなか行けないけど、行けるときに行きたいと思えるような動画配信に取り組んでみてもいいと思う。

スマート化について、スマート化とは何かというそもそもの議論もあるが、私が最近言うようにしているのは、自分のわがままを聞いてくれるということ。いろいろな仕組みやものをサービスとして提供されるが、お仕着せになると面倒に感じる。スマート化というのは、自分にとってストレスがない、わがままな自分を受け入れてくれるシステムであるということ。

先ほどのモビリティの話もそうだが、広い万博公園を一日で回るのはとても大変なので、自分が何に興味があるのかを予めインプットしていたら、あなたにとって一番おいしいところだけを自然と案内してくれる。願わくはそれが自動運転で連れて行ってくれる。それが単に公園の中だけでなく、アリーナやエキスポシティでのショッピングなど、全体で行動できる形で、「今日のあなたの一日プラン」として組み合わせてもらい、そのプランの中に公園もあるという形ができてくればいいと思う。

普段使いの話について、個人的な願望だが、ここで仕事がしたいと思う。大学の教員の一番重要な仕事はクリエイティビティなところ。日々の閉じた研究室ではなかなかいい発想は出てこないし、他の仕事も入ってくるので、できればこういうリラックスした環境を気軽に体験できる場が欲しい。最近は特にポストコロナで、都心部に行かず郊外で仕事をしましょうというワーケーションがある。ワーケーションというと大層になるが、公園だとすぐに行ける。僕は机と椅子さえあれば、公園で仕事がしたいというのが直近のあこがれで、机と椅子のレンタルでもいいし、空いている机と椅子を教えてくれるサービスなど、そういう可能性があると感じている。

先日、公園を見て思ったが、一日いても飽きない。普段使いとして、まじめにここで仕事ができるようになれば良いと思うので、どれくらいニーズがあるかわからないが考えられると思う。

（山田委員）公園で仕事がしたいという話が出たが、グランピング設備などもあり、そこで仕事をすることもできる。ただあまりいいベンチがないので、将来的にはそういうことをできるように整備するのもいいと思う。今の指定管理者は基本的にそのようなことをやりたがっているけれど、財政的に非常に厳しい状態が続いている。すぐにはできないが、将来的にはできると思う。おそらくその次にDXの活用ということで、デジタルの仕組みを使って情報提供などができればよりスムーズに使えるようになると思う。

維持管理でいうとなかなか難しい。次回の会議の時に緑部会の報告ができればと思うが、公園ができてから50年が経ち、規模が相当大きくなっている。そろそろ間引きをする時期が来ており、去年から作業を行っている。作業自体をうまくデジタル情報化して提供する。将来的には市民の方に作業に参加してもらいたいと私は考えている。そういった時もバックアップとして人員配置の情報など含めていろいろな情報があるので、システムをうまく活用してできればと思う。

先ほど高齢者と健康という話をしたが、万博公園の北側に病院施設がある。病院施設の周辺に吹田市が整備した健康運動公園という、運動器具が並んだ公園がある。

（南雲委員）健都のことですね。

（山田委員）そういったものと万博公園も含めて幅広く活用し、健康増進に努めてもらう。また、本格的なリハビリができる可能性もあるので、病院、病院施設との連携も考えられると思う。万博公園には森があるので、森林セラピーに使ってもらうなど、色々な形で吹田市全体と連携して健康づくりの土地になれば良いと思う。

（清水委員）YouTubeの話が出ていたが、万博公園のYouTubeのフォロワーはとても少ない。再生回数もとても少ないが、Instagramはとても頑張っている。写真も多く、フォロワーもたくさんいる。Instagramは見ていて楽しい。なので、指定管理者がYouTubeに力を入れていないのかなと思うが、YouTubeは見ていてもあまり楽しくない。

DXについて、当たり前の話だが、来園者のことを考えたときに、来園者が安心できるところにDXを使っていかなくてはいけないと思う。例えば便利さとか、知識・教養が増える、知りたいことがすぐにわかること、公園に来てからも使えるもの、聞きたいことが聞けるものなど、満足度を上げること。今が満足していないというわけではないが、不便なところもあるので基本的な満足度を上げる。満足すれば安心に繋がるし、DXを使って楽しくアクセスすることができる。ややこしい、面倒、難しいではなく、楽しいということが大切だと思う。ベーシックなことだが、これを満たすことで、公園の楽しさが広がるのではないかと思う。

それから、公園に来て遊んだ人が、まとめて発信できる場が今はないと思う。それぞれがそれぞれのSNSに上げたりとか、発信したりしているが、まとめて発信できる何かを作れると思うので、それをきちんとやっていく。若い人は若い人が発信した情報にすごく反応し、面白いものや美味しいものがあれば必ず行ったりもするので、そこから広がっていく。そういう仕掛け、ベーシックで当たり前のことをしっかりとやっていくことが大切だと思う。

（阿多委員）若い人に如何に万博をテーマにInstagramに上げてもらうか。よくあるのは「＃万博公園」をつけてグルーピングして発信してもらうことを上手く促進する。ハッシュタグをつけたら良いことがあると誘導するのが良いのかもしれないが、それと併せて若い人の言葉で言う「映える」写真が撮れるところをどう作っていくか。これは先ほどのアートの話と近いと思っていて、若い人にこのエリアで、自然と美術作品を融合させて写真スポットを作ってもらうような企画、テーマを作って募集をかけるなどの組み合わせがあっても面白いと思う。SNSを活用するのは今の時代に非常に有効な方法で、メディアよりも影響力のあるものもあるので、ぜひ活用が進められると良いと思う。

（三木委員）「映える」というのが必ずしもいいとは限らないが、アートを使う効果の一つはそこにあると思う。万博記念公園は個々がバラバラにあって、それぞれ全然つながっていない。今日も万博記念公園に寄ってから来たが、民博、EXPO'70パビリオン、大阪日本民芸館、太陽の塔、それぞれに行く人は全然つながっていない。広報効果として全く相乗効果になっていない。万博記念公園にある施設がもう一つ上のレイヤーでプロモーションできるような連携を考えていかなければならない。今日、民博では触る博覧会をしていて、まさにダイバーシティの話だった。そういう情報がバラバラで、知っていたら行っていたのに、寄らずに帰ってくることがかなりあると思う。公園を利用する人にとって関心を教えてくれるような形と、積極的にSNSで発信すること。太陽の塔の定点観測でもいいが、もう少しSNSを利用した戦略が必要だと思う。

（国枝会長）DXの活用ということで、様々な意見をいただいた。今はYouTubeをはじめとしたSNSがありますので、満足度を上げる情報発信の仕方、来場者がさらに情報発信をする手法があるというご意見をいただいた。また、市民が公園の維持管理に参加できる取り組み、また、病院との連携でリハビリやセラピーなど健康をテーマにした取り組みもできるのではないかというご意見もあった。さらに、万博では様々な取り組みがあったことからも、公園のイメージにはバラバラ感があるので、それを一体として伝えることについてもご意見をいただいた。DXは今後どんどん活用の場が広がっていくと思う。

**（５）常に更新され、生きている公園**

（国枝会長）最後の「常に更新され生きている公園」というテーマについて。

（山田委員）森自体が50年経って老齢化しており、森の更新を今まさにしようとしているところ。まさに、「常に更新され、生きている」ということを現実に行っているのでその辺りも含めて、万博の森がいつ作られて、どう成長して、今どうなっているのか、そしてこれからどうなっていくのか、情報として発信していきたいと思っている。発信の仕方をどうするかという問題があるが、万博公園の森自体が持っているコンテンツとして、森の成長、森の方針というのがある。それを「生きている公園」としてアピールしていきたい。どう表現するかは専門の方の知識が必要かもしれないが、公園が今持っている資源をうまく活用していきたい。

（国枝会長）森を更新するというのは奥深い話ですね。

（山田委員）老齢化した木が倒れてしまって事故が起きているというシビアな問題もあるので、これから真剣に取り組んでいこうと思っている。

（相原委員）万博の森ということで、ハード面で言うと、今アウトドアがブームなので、自然キャンプ等を取り入れられるのではないかと思っている。ソフト面では、公園全体のミュージアム化というのが分かりやすいと思う。自然でずっと生きているので、これをどのように見せるのかというときに、委員の皆さんが言っていたデジタル化が有効だと思う。SNSではハッシュタグを統一したものを一つ作ること。みんながいろいろなものを使うとまとまりがないので、何か記念のものを作って発信の材料を作れば、無駄なく発信できるのではないかと思う。

あと、研究室以外で仕事をする話は僕も賛成する。公園をパブリックスペースにできると思う。一つ例として、他の公園ではWi-Fiがどこでも使えるようになっていて、椅子やテーブルをおいて自由に使ってもいいことにして、片づけをしなくても最後にNPO法人などが片付けるシステムがある。

自然環境という視点では、あれだけの自然がある中で活かさない手はないと思う。自然キャンプは探検ということもできる。最近ではプロ野球の球団でもキャンプでプログラミング教室などをしていて、色々なものをくっつけて親子キャンプをしている。色々なことをテストマーケティングしながら進めていけると良いと思う。

（南雲委員）「生きている公園」ということで、私も西側の森のことが浮かんだ。審議会が始まったころから、そろそろ更新の作業があるということは聞いていた。あれだけの自然があるので、人が入らなくなると自然は傷んでいく。常に来てもらうと同時に、子供たちが親子でオリエンテーリングやキャンプができる、いろんなものを連携して遊べる場にできることが理想だと思う。

それと、今は落ち葉の時期で、近くの大学生が落ち葉を掃く用具を持って走っていた。どうするのか聞くと、落ち葉を掃除するのだと言っていた。自分たちが使う場所をきれいにするという意識がある。地域の協力や利用者の協力は声掛けをしたら得られると思うので、自分たちの万博公園であるという意識を持ってもらえたら一番有難いことだと思う。自主的にしている人もいるが、みんなでしようという呼びかけで人が集まれば大きな輪になっていくと感じている。

（三木委員）万博が森林の公園になった経緯はほとんど知られていないと思う。とても人工的だったものがなぜか森になる、それは様々な歴史があってのことだが、その歴史はもっと共有されてもいいと思う。人工的な森の例で行くと明治神宮もある。人間が介在しないと森はきれいにならないので、ソーシャルな森という設定を変え、人が育てていくということにして、キャンプやワーケーション、泊まれるパビリオン、星が見える天文台なども作ればいいと思う。昔の万博は、当時、宇宙技術が中心だったので、宇宙に関するものが多かった。エキスポタワーのキャビンの中も宇宙のイメージだった。当時の技術は、宇宙、原子力、コンピューターがメインで万博でもそれらが中心だった。今は宇宙のイメージはすっかりなくなっているが、最近では宇宙ビジネスも大きくなっているので、もう一度、宇宙のことを考えることを森の中でやってもいいと思う。

（玉置委員）実験都市として次世代のことがすごく大事だと思っていて、万博公園ぐらい広いと、自然エネルギーを試すこともできるし、ただ「これだけのエネルギーを賄っている」ということではなく、自然エネルギーの中でも新しいエネルギーの実験都市とすること。あとはこれだけ広いので、自動運転などもできる。2025万博ではティアフォーなどが大阪メトロと協力しているが、自動運転は広くてあまり人がいないところでないとできない。ティアフォーやシナスタジアは移動しながらVRが見られるという技術を持っていて、彼らは池袋や西新宿などで実験をしているが、こういうものを万博公園で導入する。とにかく広い万博公園でも自動運転車で移動すれば一日で全部回れるようになると思うし、移動の途中に万博公園の歴史も含めてVRで見せながら走ることもできると思う。観光庁でもプロポーザルでやっている。モリコロパークでもシナスタジアがやっている。万博公園もいい場所なので、夢洲でする前に吹田でやって、未来を先取りで見せる。ぜひメディア化したいと思う。

（国枝会長）森には50年という歴史があり、これからどうなっていくのか発信することを考えているという意見があった。また、公園で自然キャンプやグランピング、公園のミュージアム化ができるのではないかという意見もあった。親子や地域の方が清掃活動に参加できる取り組みもいいという意見もいただいた。最後に実験都市としての新たな実験の場としての取り組みをしてほしいというご意見もいただいた。

**○議題２　新たな将来ビジョンの枠組みについて**

（事務局）資料４の12ページをご覧ください。ここからは新しいビジョンの構造についてご議論いただきたい。

現状のビジョンの構造についてはまず、基本テーマ、基本理念、目指すべき公園像がある。そして、その下に、4つの目標と7つの基本方針を立てている。目標としては、計画年度を令和10年度としており、定量的な目標は来園者数であり、300万人を設定している。

先ほどの議論を踏まえると、テクノロジーに関するものが多かったと思う。テクノロジーは日進月歩の世界なので、長期間の計画としてしまうと、常に見直しが必要となる可能性がある。コアとなる部分、理念についてビジョンとしてまとめるようにし、その下に短期間の実行計画、アクションプランを作るようにして対応する必要があると思う。

基本テーマと基本理念については条例に記載されているので変更しない。目指すべき公園像についてもこのままで変えようがないと思う。議論していただきたいのは、基本方針と目標について。また、方針と目標をビジョンに入れるのか、アクションプランとするのかも併せて議論いただきたい。

例えば、玉置委員が言っていたようにSDGsは2030年までなので、SDGsを基本理念に入れていくのであれば、ビジョンの期間を10年とするなど。もう一つは、基本理念については変えずに1枚にまとめ、その下に基本方針を入れた実行計画を作るなども考えられる。

最後に、阿多委員からも来園しなくても公園の魅力が伝わるようにするという意見があったように、これからは来園者数300万人という単一の指標だけで目標達成とするかどうかも問題となる。複数の指標をもって達成度を諮ることが必要だと感じた。

（国枝会長）これまでの事務局からの説明について、ご意見、ご質問をお願いします。

（山田委員）ビジョンはもともと2015年にできたものなので、2015年から2020年までに何が達成できたのかを入れなければならないと思う。そのうえで、4つの目標、7つの基本方針に対して、コロナもあったので、4つの基本方針を維持するということであれば、7つの基本方針を今日の議論を踏まえて書き換える。2020年までにはここまでできて、積み残しはこれなので、積み残しに対して基本方針を作って対応することとする。それに合わせて目標を変えるということで、複数、今後10年間の方針を示す。今の総括をして次に行く、という段階を経なければいけないと思う。

（事務局）委員の言う通り、新しい目標を語る前に何ができたのかを振り返ることは必要であり、また、新たな観点が何であるのかは検討していきたいと思う。

（清水委員）資料4の12Pをパッと見た時にこれが万博公園だとわからないと感じた。万博公園らしさがどこにあるのかわからない。それがとても大事なのではないかと思う。

（国枝会長）これまでの万博とこれからの大阪・関西万博のつながりについてはいかがか。

（三木委員）万博記念公園である限り、基本的に未来を考える場であると設定したほうが良いと思う。2025年とのつながりで言うと、当時の科学技術のトレンドは原子力と宇宙とコンピューターだった。ほとんどのパビリオンがそうだった。サブテーマのひとつとして「いのち」があった。70年代以降にバイオテクノロジーがアメリカの技術のトレンドになり、それを追いかける形になっていて、特に最近では再生医療などを中心にトレンドになっている。それを健康長寿などで総括したものが2025年万博だと思う。僕が指摘しているのは、70年のパビリオンの中で唯一命をテーマにしたパビリオンが太陽の塔だったということ。岡本太郎はテーマを深く考えて生命の樹をイメージしたと思うが、逆に言えば岡本太郎だけが2025年万博を先取りしていたということであり2025年万博に繋る生命科学も入っていた。民族学博物館もパリ万博に倣ってできた。万博記念公園には現在、生命の樹を擁する太陽の塔、民族学博物館があり、科学技術というものが削られているように見えるが、一方で実験都市ということも掲げていたので、もう一度ひろく科学技術と繋ぎ直さなければいけないのではないか。広く、未来をどう生きていけばいいのか考えていける特別な公園であることを設定しなおさなければいけないと思う。

（玉置委員）今の話には深く共感する。70年万博と25万博をつなぎこまなければいけない理由として、人間洗濯機や歩く歩道を考えがちだが、岡本太郎の太陽の塔もそうだが、文明論だと思う。当時の先鋭的な人たちが文明について考えた結果がEXPO’70であって、日本で開かれた万国博覧会の中でも突出して大阪万博が残っているのは人間の文明がどうなっていくのかを考えた結果であると思う。これだけの時間が経って、25万博や2030年のSDGsに向かってこれからの文明論がどうなっていくのか考える場が必要になると思う。その可能性の一つが、鉄鋼館の隣にできるアネックスだと思う。あれが、もう一度万博の意味を問い直す良い施設だと思うので、それは外せない軸だと思う。

（国枝会長）再生医療などの重いテーマもいただいた。事務局からいかがか。

（事務局）前回の審議会から様々なご意見をいただき、万博公園として押さえなければならないポイントが見えてきたので、具体的に手触りのある目標を考えていかなければならないと思った。随時、オンライン等でも委員の方たちからご意見をいただき、次回の審議会ではたたき台となるものをお示ししていきたい。どのようなものができるかわからないが、会長とご相談し、万博公園とわかる目標を盛り込んだうえで、ご提示していきたいので、またご審議をお願いする。

（三木委員）達成できたもので言うと、生命の樹を再生したことだと思う。再生というのがとてもいいと思う。生命の樹は岡本太郎の最初のビジョンであって、太陽の塔は外側。生命の樹を再生させたことが、生命の再生ということで25万博の再生医療などにもつながっていくと思う。それを軸にして他の達成目標、森の再生や公園全体の再生がテーマになると思う。

（相原委員）アーバンスポーツの視点を入れてもいいと思うのと、人が住むということになればまちづくりという言葉を入れたほうが今時かと思う。また、ミュージアム化ということで、自然があって、デジタルがあるという、ふり幅が大きければ大きいほど万博公園が目立つことになると思う。

Ⅲ　閉会

（次回審議会予定について、事務局から連絡）

以上